



価値創出プラットフォーム

～ 道の駅いちかわをハブとした地域共創拠点～

↓ 高校生・学生が道の駅いちかわにて

イベントを実施している様子



協働・共創団体の種別

NPO	地縁	社協	学校・ 大学	企業	行政	その他
-----	----	----	-----------	----	----	-----

協働・共創団体

- ・道の駅いちかわ(日本メックス株式会社)
- ・有限会社 加藤海苔店
- ・café WANISHAN(カフェワニシャン)
- ・サンアイパック株式会社
- ・有限会社 八矢庵
- ・イシハシ食品合同会社
- ・宮内農園
- ・KITCHEN ヤマネコ
- ・Dog Studio Punana
- ・KAZ☆ROCK
- ・キッチンカー福
- ・瓶詰工房 Funky Pine
- ・千葉商科大学人間社会学部 勅使河原隆行ゼミナール
- ・ソーシャル Lab
- ・一般社団法人 ソーシャル Lab
- ・本八幡 bot
- ・株式会社 MOZU
- ・千葉商科大学附属高校 商業科ビジネスコース
- ・株式会社カトルカール
- ・株式会社アノニギワキ
- ・窪田味噌醤油株式会社

計21団体

事業費

商品開発費用 ・イベント運営費用

(1 商品あたり 10 万～20 万程度)

(イベント出店料:1 回 5,000 円程度)

資金調達手段

運営団体負担

事業概要

本事業は2019年より千葉商科大学附属高校、2024年より千葉商科大学人間社会学部が加わり、道の駅いちかわを拠点として継続的に実施している。事業の主な内容は以下の5つである。

- ①高校生・大学生・道の駅いちかわ・地元企業の4者による地域課題解決型の商品開発
- ②高校生・大学生・道の駅いちかわ・地元企業の4者による販売事業
- ③高校生・大学生・道の駅いちかわ・地元企業の4者によるイベント運営
- ④高校生・大学生・道の駅いちかわ・地元企業の4者によるキッチンカー・移動販売事業
- ⑤情報発信(SNS、動画、メディア出演、研究発表会、フリーペーパー等)

協働・共創までの経緯

千葉商科大学附属高等学校商業科ビジネスコースでは、「地元企業と共に新たな価値を創造する」をコンセプトに、地域課題の解決を目指したプロジェクト学習に取り組んでいる。その中核となるのが、地域資源や社会課題に着目した商品開発である。道の駅いちかわは、市川市のシティセールスや地域活性化の拠点としての役割を担っており、「地域を盛り上げたい」という思いが本校と一致したことから協働が始まった。道の駅いちかわを地域連携のハブとして位置付け、生徒が企画立案者となり、市川市・松戸市を中心とした地元企業や生産者と連携し、商品開発や販売イベントの企画・運営に取り組んできた。活動を通して、道の駅いちかわには多様な事業者や地域団体とのネットワークが形成され、本校と地域事業者をつなぐコーディネーターとしての役割も担うようになった。現在では、高校生・大学生、地元企業、生産者、地域住民が協働する「価値共創プラットフォーム」として発展し、地域課題の解決と新たな地域価値の創出に取り組んでいる。

📌 主な事業内容(年間スケジュール等)

- ①商品開発・販売(年間を通して実施)
- ②イベント運営(月に1回、年間を通して実施)
- ③移動販売事業(年間を通して実施)

📌 協働・共創団体内での役割分担

【道の駅いちかわ】

事業全体のコーディネート・マッチング提案・販売のアドバイス
地域の課題・魅力を学習する講義・フィールド提供・商品開発

【千葉商科大学・付属高校】

商品・イベント企画立案・地域課題調査・販売活動・SNS 発信

【協働企業・生産者】

原材料・製造技術の提供・販売協力・専門的助言・商品化支援

📌 協働・共創事業によって生まれた成果

開発商品数の増加/イベント数の増加/常設ブースの設置/
移動販売事業の開始/地域イベントとの連携の拡大/
協働事業者・団体数の増加/来場者数増加/売上向上/
新規顧客の獲得/地域内ネットワークの拡大/メディア露出増加/
高大連携・産学連携の強化

📌 今後力を入れていきたいこと

- 農業・観光・福祉・環境分野との連携拡大
- 2027 年国際園芸博覧会との連携
- 市川産農作物ブランド化
- ふるさと納税商品化
- 移動販売事業の本格展開
- 他地域・他大学へのモデル展開

♡ コラボのコツ!!

本事業のコラボのポイントは、教育機関を単なる参加者ではなく、「企画立案の主体」として位置付けていることである。高校生や大学生が地元企業へのヒアリングから課題発見、企画立案、商品開発、販売、効果検証まで一連のプロセスを担い、そのアイデアを企業や農家が専門的な知見や技術で実現し、道の駅いちかわが販路提供や事業化支援を行うことで、それぞれの強みを活かした協働体制を構築している。また、単発のイベントや個別プロジェクトに留まらず、道の駅いちかわを中心とした「オープンな価値共創プラットフォーム」を形成している点も大きな特徴である。道の駅いちかわが地元企業や生産者、NPO、教育機関などをつなぐコーディネーターの役割を果たすことで、新たな連携が次々と生まれ、協働の輪が継続的に広がっている。さらに、活動を商品開発に限定せず、定期販売イベント、キッチンカー運営、移動販売事業、食育ツアー、農業体験、2027 年国際園芸博覧会に向けた機運醸成事業など、多様な取り組みへ発展させている。その結果、参加団体それぞれが成果を実感できる機会が増え、活動の継続性と発展性が高まるとともに、新たな地域価値の創出につながっている。



↑ 地域資源を活かし、4 者共同で開発した商品の例

協働・共創事例プロフィール

- 【活動開始年】 2019年4月 【活動のPR 手法】 Instagram (@cuchs_varue_creations)
- 【この事業で活用した補助金】 特になし (@michinoeki_ichikawa)
- 【表彰歴・マスコミ掲載歴等】 2024年12月22日(日) 朝日新聞 / 2025年2月5日(水) 読売新聞
- 2024年 商業高校フードGP 来場者賞受賞 / 2025年 SDGs QUEST みらい甲子園 千葉銀行賞 受賞
- 【問い合わせ先】 担当者:田名(たな) 電話番号:080-1795-5759 メールアドレス:tana7011@hs.cuc.ac.jp